

村石記者は、なぜこのテーマの取材をすることになったのかの説明から入り、12枚のパワーポイントを使って、若年女性の実態を説明して下さいました。風俗という仕事に関わらざるを得ない生活を送っ



ているシングルマザーの姿や、貧困にあえぐ若い女性たちの実像を、一部VTRも入れて、取材した内容を紹介していただきました。

住むところ、食事ができること、そして給料が一般の仕事よりも高い、子どもがいても預ける場所が提供されているなど、需要と供給が合致している状態の中で、なかなかこの環境から脱出できないでいるのが現実です。今回の取材先は、風俗店と言っても良心的な仕事場のようで、セーフティネットになっています。いささか疑問を抱くところでした。

社会が階層化し、正規・非正規の働き方の差が顕著になってきています。社会保障が風俗店のサービスに負けている。社会保障の敗北ではないのかという言葉が印象的でした。

第二部 パネルディスカッション

「さあ～、みんなで考えよう」

【パネリスト】

飯沼 直樹

(静岡市こども食堂ネットワーク代表)

赤堀 牧子

(静岡市母子寡婦福祉会事務局・日常生活支援員)

【コメンテーター】

村石 多佳子

(元 NHK クローズアップ現代記者)

【コーディネーター】

佐藤 成子

(NPO 法人世界女性会議ネットワーク静岡理事)

司会者 (小沼秀朗)

ありがとうございました。取材に至る経緯やVTRを交えて、「あしたが見えない～深刻化する・若年女性の貧困～」について、ご講演頂きました。皆様、もう一度大きな拍手をお願い



いたします。先程皆様にお分けしました、“感想、質問”シートにどんなことでも結構ですのでお書きください。それでは、続きまして、パネルディスカッションに入りたいと思います。コーディネーター佐藤成子さんよろしく願いいたします。

コーディネーター

昨年、私共のNPOは、北京の世界女性会議で採択された北京行動綱領の中の一つ「女性の政治参画」についてをテーマにしたシンポジウムを開催しました。今年は、その行動綱領の中から「女性と貧困」を取り上げました。さて、皆さん、貧困の言葉で、どんなイメージを持たれるのでしょうか？根本的な原因はどこにあるのか？解決のためには、どんな社会制度が必要なのか？私達にできることは何なのか？これから皆さんで、考えていきたいと思っています。本日お越頂きましたのは、静岡市こども食堂ネットワーク代表 飯沼直樹さんと静岡市母子寡婦福祉会事務局・日常生活支援員の赤堀牧子さんです。先程の村石多佳子さんにもコメンテーターとしてご参加いただきます。それでは、飯沼直樹さんから、村石さんのスピーチを聞いての感想と御自身の今やっというらっしゃることも含めてお話いただけますでしょうか。



飯沼 直樹

私たちは、静岡市です
ね、こども食堂を広げ
ていく活動をしている団
体です。やっぱり、貧困
は連鎖する部分ってすご
くあります。こども食堂
は、もともと東京で始
まった活動ですが、絶対



的な貧困、今日ご飯食べるものがないという
お子さんも、もちろんいらっしゃるでしょう
けれども、やっぱり多くの場合は、相対的な貧
困というものの問題が一番大きいです。また、
食事の環境の貧困もあります。孤食、孤独な食
事をする、孤食問題です。貧困にこだわらず、
問題を抱えている子どもだけを集めるのではな
く、まず子ども食堂って楽しいよ、誰が行って
もいいんだよという形でやっています。

こども食堂は、その地元で根付くような形で定
期的にやっていくしかないのかなと思っており
ます。流行りとかブームとかっていう形ででは
なく、こども食堂ほど、コツコツとそのエリア
になじむ形でやっていくものはないのかなとも
思っております。

コーディネーター

はい、どうもありがとうございました。女性
の貧困が、子どもの貧困につながっていくとい
う、俗に貧困の連鎖という言葉で表現されてい
ますけれども、それをどうやったら断ち切れる
のか。実際、様々な子ども達を集めてケアして
下さっている、貧困対策としての子ども食堂と
いう位置づけもあるかもしれないけれども、そ
うばかりではないということです。

それでは、静岡市の母子寡婦福祉会事務局で
働いていらっしゃる、日常生活の支援を
していらっしゃる、赤堀牧子さんにお話を伺い
たいと思います。

赤堀 牧子

こんにちは。静岡市母
子寡婦福祉会の赤堀です。
お話の中に出てくる女性
たちが育ってきたんじゃ
ないかなと思われる家庭
に支援に入っています。
そのお子さんたちにとっ
ては、その今生活してい



る中だけが、社会であって、それがもう、その
子にとっての常識で、普通の私たちが暮らして
いる社会とは、まったくやっぱり違うんですね。
社会性を身につけられないで、成長していくん
だと思います。生活保護とかを受けていれば、
最低限暮らせる収入、お金は入ってきます。何
が貧困かって、やっぱり、人とのコミュニティ
というか、ちゃんとした社会を教えてくれる大
人とかの関わりが少なくて、それがすごい問題
かなあと、今改めて思っております。相談でき
る大人とか相手がいるということが、本当は大
事なんだと、今つくづく思っております。風俗
とか、すぐに収入が得られる場所に行くわけ
ですけれども、何らかの行政につながれた方は、
幸せだと思うんですね。つながったことによ
って、いろんな支援を受けられたり、生活保護も
受けられるようになったり、相談に乗ってくれ
るので、そういう、社会とつながるっていうこ
とが、非常に大事だと思いました。

コーディネーター

様々な子どもの姿や貧困について語られました
けど、村石さんコメントをお願いします。

村石 多佳子

貧困の女子高生の話、テレビご覧になりました
か。あれは貧困じゃないっていうような形で、
非常にバッシングがあったのですが、日本人が
描く貧困のイメージっていうのが絶対的な貧困

なんです。しかし、食べることを知らない、きちんとした生活習慣を知らないとか、遊ぶ機会を奪われてるとか、学ぶ機会がないとか、そういう、いろんな機会を奪われているというのが、今の日本の貧困の現状だと思うんですね。だから、そういうところを、もう1回、見つめ直さなきゃいけない。日本人の子どもってやっぱり家庭っていうところが絶対的な存在。周りに人があまりいない家庭で育っているから、親の存在というのがすごく大きくなっていて、親が駄目だったら子どもが駄目っていう構図が、非常に昔よりも強くなっている。絶対的な親以外の存在が、外にもあるよっていうふうに、いろんな場を与えていくのが、必要なことなんじゃないかというふうに、取材を通して感じているところです。

飯沼 直樹

お子さんの問題って、子どもに問題があるんじゃないくて、その親御さん、あるいは家族、家庭に問題があることが多い。こども食堂で子どもへの対応を何とかしようっていうのは、あくまでも対症療法でしかなくて、根本的な問題っていうのは、その親御さんの問題で何とかしないと、子どもの様々な問題はクリアできないかなと思っています。

コーディネーター

社会全体として、そういう、頑張れば頑張って評価されていく、自分の望む方向に一步でも近づいていけるという社会が、今日本にあるだろうか。今の社会は、段階的というか階層的になっていて、そこの横の線から上にもっと上っていきたいっていう時に、なかなか上り得ないものがあるのではないかな。村石記者、いかがですか。

村石 多佳子

階層化社会っていう言葉も使ったりしますが、正職員の人のほど結婚するし、非正規の人は結婚してない率が高い。やっぱり、教育で、そこで頑張らないと。

我々自身、あんまり、周りに貧困の人がいないとか、気づかないとかっていうのではなくて、視点を変えて、もしかしたら困ってる人かもしれないっていうふうに人と接していくっていうことから、何か始まっていくんじゃないかなあっていうふうに、取材を通じながら感じています。

コーディネーター

「女性と貧困」ということで、このセミナー呼びかけをしましたところ、こんなにたくさんの方においでいただいたということは、このテーマにきっと皆さんは、相当興味を持っている、このテーマが本当に重要なものなんだという認識を、改めていたしました。

本当にご参加ありがとうございました。たくさんのご意見をいただきましたことにも感謝申し上げます。

参加者の感想と質問

①自己責任論で片づけられてしまうとおっしゃっていましたが、たしかにこの問題は、ある意味、彼女自身の選択によって招かれた問題であることは、否定できません。しかし、一方で、そういった選択をせざるを得ない状況があることも、理解しなければなりません。彼女たちに対する支援は、経済的な支援はもちろんですが、心のケアや、彼女たち自身の意識を変えていくサポートをしていく必要があると思いました。

②この「クローズアップ現代」で取り上げてくださった、この内容そのもの、性風俗に頼りがちな実態ということについては、今までは、あ

まり目にする事がなかった。だけれども、そういう実態があったんだ。しかも、それがセーフティネットになっているということでもいいんだろうか。

③もっともっと深掘りをしていただいて、今後とも積極的に放送をお願いします。

④自分の周りにはそういう人が見当たらない、本当に女性と貧困と言っているけど、それは実態なのか。

⑤男女ともに、これはやっぱり教育、特に一生を通しての生き方を、学校教育の中で取り上げることが大切だ。



3. 協働団体

- ・ 静岡市女性の会連絡会
- ・ 一般社団法人静岡市母子寡婦福祉会
- ・ 一般社団法人大学女性協会静岡支部

4. おわりに

知っていますか？見えていますか？“女性と貧困”は、テーマとして、関心の高さが伺えました。定員を大きく超えての参加を頂きました。

どのような切り口で議論を展開していくかが大事なことだと思っていました。貧困と言ってもさまざま。北京行動綱領で取り上げられていたのは、まずは、開発途上国や紛争地域での女性の貧困であり、次に、経済社会構造の中での女性の置かれている立場が生み出す女性の貧困です。この講演会を企画したきっかけは、若年女性の貧困のテレビ放映でした。その後、子どもの貧困が子供食堂の各地での開催で見えてきました。

又、下流老人の本で語られています。この呼び方に属する老人が増えてきている、つまり、子どもから高齢者まで、貧困と向き合わなければならない人たちが確実に増えていると言う事です。

私達は、どんな家庭に生まれるか、自分で選択することはできません。人生お金では測れるものではない！！とは重々わかっていますが、テレビで語られたこの現実を目の当たりにすると、何とかできないものかと考えさせられます。女性は最後は、風俗に行けるからいいよ、と男性に言わせておくわけにはいきません。男女の賃金格差や、非正規雇用が多い女性達など、経済社会での構造的な変革が必要なのではないでしょうか。

弱者に対する温かさが必要なのに、DVなどで悩む女性にはかなり厳しい、冷たい状況です。それらのために貧困と闘わなければならない女性達も多くなってきています。シングルマザーにも同様です。社会のセーフティネットの構築が必要です。まだまだ足りません。政治的ポジティブアクションが必要なのではないかと。

決して、貧困の連鎖はさせてはいけない。若い女性達が希望を持てる社会にするためには？

子ども食堂の拡大は良い事？など、深堀出来ず、今回はほんの入り口の議論しかできませんでした。今後ターゲットを絞って、貧困について議論を深めたいと思っています。

たくさんの質問とアンケートにご協力いただきました事に感謝いたします。貴重なご意見、今後の活動に活かしていきます。

(文責 佐藤成子)

紙面の関係でほんの一部しか紹介できていません。完成版をご希望の方はご連絡ください。

報告書「知っていますか？見えていますか？ 女性と貧困」

【発行】

NPO法人 世界女性会議ネットワーク静岡
代表 守屋秀子

【事務局】

〒422-8046

静岡市駿河区中島 430-9-305

守屋方 TEL:054-281-4078

平成28年度あざれあ地域協働事業

知っていますか？ 見えていますか？ 女性と貧困

10年前には「見えない」と言われていた「女性の貧困」。そして、ここ数年「子どもの貧困」も取り上げられています。高齢女性、シングルマザー、一人暮らし女性、若い世代女性など、その姿が顕在化しています。まさに大きな社会問題です。

- ・この根本的原因はどこにあるのか？
- ・解決のために、どんな社会制度が必要なのか？
- ・そして、私たちにできることは何なのか？

皆さんと一緒に考え、議論を深めたいと思っています。是非お集まりください。

第一部 «フラッシュスピーチ»

「あしたが見えない〜深刻化する『若年女性の貧困』〜」
元NHKクローズアップ現代 記者
村石多佳子さん

第二部 «パネルディスカッション»

「さあ、みんなで考えよう」
※コメンテーター 村石多佳子さん

パネリスト	パネリスト	コーディネーター
 静岡市子ども食堂ネットワーク 代表 飯沼 直樹さん	 静岡市母子高齢福祉会 事務局・日常生活支援員 赤堀 敦子さん	 NPO 法人理事 佐藤 せい子

日時：2016年11月5日（土） 13:30～15:30
会場：静岡県男女共同参画センター（あざれあ）4階 第2会議室
参加費：無料
申込み方法：＜TEL・FAX＞054-281-4078（守屋）054-262-7016（佐藤）
＜Eメール＞ sseiko@nifty.com
※ 当日直接会場にお越しくださいのご参加も受け付けます！

主催：NPO法人 世界女性会議ネットワーク静岡
協賛団体：静岡市女性の会連合会・一般社団法人静岡市母子高齢福祉会・一般社団法人大学女性協会静岡支部



9. 小児発達医による講演とパンフルートの演奏会 親のいう事を聞かない子、どうしてでしょうか？

ー子どもの発達と行動から子どもを理解するー

特定非営利活動法人 子ども虐待防止センター・しずおか

代表 井出 志津夫

1. 事業目的

子どもの虐待は年々増加傾向にある中、当センターで受ける電話相談でも、もしかしたら虐待のリスクに繋がってしまうのではないかと心配するケースの相談も多い。「子どもが言うことを聞かない」「子どもをどうしついたらよいかわからない」「育児についていろいろ心配なことがある」など、子育てに悩む母親の相談に、じっくり傾聴する中から、今の乳幼児を持つ母親や父親の世代は、少子化時代に育ち、乳幼児との関わり体験がないままに子育てをしなければならない現状にあり、特に母親の育児不安はストレスフルにさせているだけでなく、虐待のリスクに繋がっているのではないかと考えられた。

この現状から、まず母親や父親が安心して子育てができる支援、その支援を家族や地域の人・子どもを見守る様々な専門職が連携・協働して、安心して子育てができる環境を提供する必要性があることを知り、今回の講演会には2つの目標を立て実施した。

①子どもの発達と行動について理解を深めることで、養育者が安心して子育てができる。

②家族や地域で見守り支える老若男女が、自分たちは地域で何ができるかをそれぞれの経験や知識を生かした中で考え、地域と連携・協働し子育て支援を一步すすめる。

2. 事業内容

〈地域における男女共同参画をすすめる講演会〉

【実施日時】平成28年10月29日（土）

午前10時～12時

【実施場所】静岡県男女共同参画センター

小ホール

【対象者】子育て中の家族と子育てを支援する
老若男女

【参加人数】70名

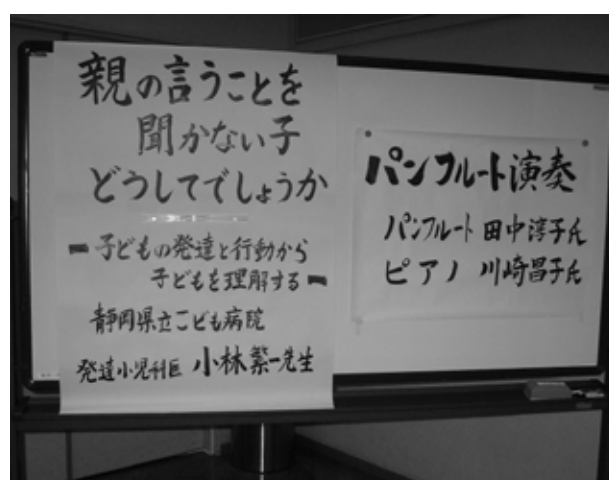
子育て中の家族22名

地域で見守る人たち48人

内男性7人

女性63人

幼児託児6名





3. 事業の成果

この講演会を実施する中では、母親や父親が安心と自信を持って子育てができること。子どもたちの育つ環境が安心・安全であり、こどもが健やかに育つことを保障する環境づくりを参加者全員が考え、子ども虐待のない地域社会を築くための動きがここからスタートするという効果を期待しての講演会であったが、下記のアンケート結果（抜粋）から目標が達成できたと考える。

子育て中の家族の感想

- ①子どもとの接し方、関わり方がいろいろあることの話が聞けて自分自身も成長しないといけないと感じた。
- ②自分の子育てを振り返り反省する点ばかりでした。
- ③言い方を少し変えるだけで、子どもの心に希望の光が灯っていくのだと思いました。
- ④肯定的な言葉を発することの重要性を改めて感じました。今日から一つでも実行に移していきたいと思います。
- ⑤子どもが ADHD なので今後の声掛けの仕方に気を付けながら育てていこうと思います。
- ⑥子どもの行動に注目してよい行動を増やしていくことがよりよい親子関係を作るのだと改めて学びました。
- ⑦否定語を使わずに子育てすることを実践してみます。
- ⑧こどもの行動に対してこんなことでできて当たり前前と思い、褒めて育てなかったことを反省しています。
- ⑨肯定的な言い方で子どもと関わり、子どもの意見を尊重していきたいと思いました。

現場で働く保育者や子育てを地域で見守る人たちの感想

- ①周りの人に肯定的な言い方で子どもと関わり、子どもの意見を尊重していきたいと思いま

した。

②私は幼稚園に勤務していますが、まとめてお話していただいたことを職員に、そして保護者に伝え、信頼関係を大切に築き、大人が子どもの行動に振りまわされることなく、子どものために前向きに導くことができるよう努めていきたいと思いました。

③保育（療育）の現場にいるものとして、必要なものを考えさせられました。現場に照らし合わせて今後、また子供たちと向い合いたいと思いました。

④中学生を対象に学校関係の仕事をしています。本日の講演は現場でも非常に役立つ知識を教えていただいたと思います。「そういえばあの子は？・・・」「あの子も・・・」というように今、関わっている生徒の中にも思い当たる子、教員の間で手を焼いている子がたくさんいます。そういう生徒に関わる身として、活かせる場面がないか、模索して頑張りたいと感じました。

⑤否定→肯定に声掛けを変えていくという事はADHDの子だけでなく、全ての子どもとの関わりにも繋がっていくことだと感じました。

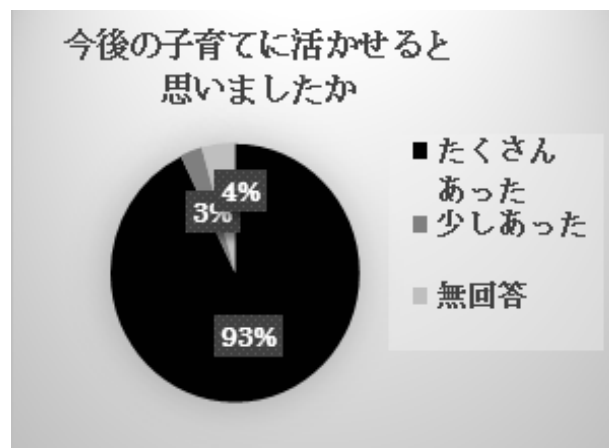
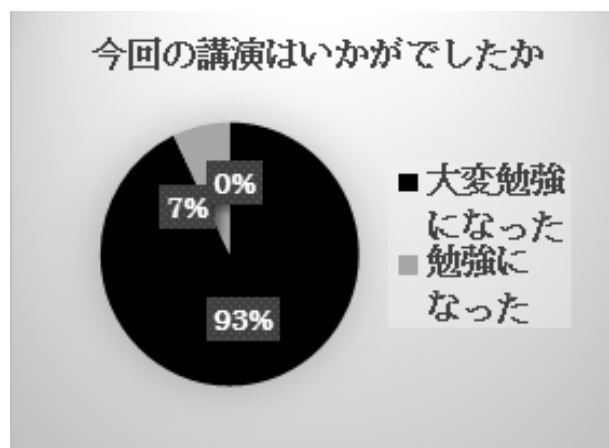
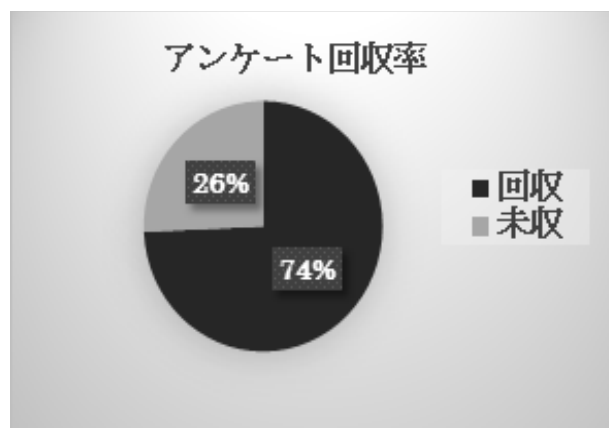
⑥保育（療育）の現場にいるものとして、必要なものを考えさせられました。現場に照らし合わせて、今後また子供たちと向い合いたいと思いました。

以上のような多くの声がきかれた。

4. 今後の展望

参加者から、今後も引き続き講演会開催の要望が多くあった「子育てで誰もがぶつかるような悩み、イライラ、対処の仕方、子育ての心構え」などについて、多角面から子育て支援ができる内容をシリーズで企画・開催していきたいと考えている。

【アンケート結果】



【講演会プログラム】

9：30 受付

10：00 開会

特定非営利活動法人子ども虐待防止センター・しずおか

理事長挨拶

静岡県男女共同参画センター

交流会議 理事挨拶

10:08 講演
「親のいう事を聞かない子
どうしてでしょうか」
—子どもの発達と行動から子ども
を理解する—
静岡県立こども病院
発達小児科医 小林 繁一

11:35 パンフルートの演奏会
パンフルート 田中 淳子
ピアノ 川崎 昌子

♪
ロマーナの祈り
童謡メドレー
涙そうそう
トロイメライ・・・ピアノソロメモリー
コンドルは飛んで行く

12:00 閉会

【講演会資料】(抜粋)

なぜ親のいう事を聞けないのか

[子ども側の要因]

- ・ 自分の興味・欲求が優先して、指示の内容をす
る動機が弱い。
- ・ やっていることから切り替えが困難で、やりだ
しても途中で気が散りやすい子がいる。
- ・ 耳からの情報が入りにくい子がいる。

[親側の要因]

- ・ 指示の仕方が上手でない。
- ・ 子どもが指示通りにしてもほめてこなかった。

育児の要点

1. 子どもに自己肯定感を育てる。
乳児期 きちんと養育することで、基本的信頼感を育てる
幼児期以降 子どもの気持を尊重する
どんな気持でも気持が間違っているということはないので、
気持は認める。しかし、ある気持に基づく行動は、その人
の責任で行うもので、していいものと思いいいものがあること
を教える。
2. 家庭のなかで子どもが安心している。
両親の仲がよい。
親が子どもの不安に対処する。
3. 年齢に応じて必要なことを身につけられるよう教える。

日常の子どもへの関わり(まとめ)

- ・ 普段から好ましい行動に注目してわずかな頑
張りでもほめる。
- ・ 指示をCCQ(気持ちを落ち着けて、近づいて、
穏やかな言葉)で伝え、従ったらほめる。
- ・ 不適切な要求は無視して待ち、要求をやめたら
ほめる。
- ・ 子どもの気持ちを汲む。

5. 協働団体

- ・ しずおか健やか・生きがい支援隊



託児の様子

あざれあ地域協働事業
「発達小児科医による講演と
パンフルートによる演奏会」

10/29^土
10:00~12:00
(受付 9:30~)
あざれあ
6階 小ホール
(託児室あります)
(公共交通機関をご利用ください)

静岡県立こども病院
発達小児科医 小林 繁一氏
パンフルート奏者 田中 淳子氏
ピアノ伴奏者 川崎 昌子氏

小林繁一氏 プロフィール
東京大学医学部卒業
静岡県立こども病院勤務
静岡県立こども病院では平成17年度に児童
虐待防止対策委員会を発足させ、以後4年間
委員長を務めた。また、発達障害の診療のな
かでより子育てこそが鍵であると考え、平成
19年から毎年、発達障害者の親を対象にベ
アレントトレーニングを行っている。

対象者 子育て中の人
子育て中の方を
支援する立場の人

申込方法 うら面FAX・郵送
受付 申込順
メ 切 10/8出

主催 NPO法人 子ども虐待防止センター・しずおか
協賛 しずおか 健やか・生きがい支援隊

平成 28 年度あざれあ地域協働事業実施要綱

1 趣旨

この事業は、県の委託を受けて、特定非営利活動法人静岡県男女共同参画センター交流会議（以下、「交流会議」という）が実施する。静岡県内各地域の団体が、地域の自治組織、民間団体、教育機関、企業、市町等と連携、協働して、男女共同参画の理解を促進するために行う事業を助成する。

2 定義

この要綱において、男女共同参画とは、男女が性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮する機会が確保されることにより、社会の対等な構成員として自らの意思により、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野における活動に参画し、ともに責任を担うことをいう。

3 実施主体

各事業は交流会議との共催となる。

4 事業内容

①主題

協働による地域の男女共同参画推進事業を行う。

②実施内容

次の A ～ C の事業をア～エのテーマで実施すること。

【事業内容】

- A 地域において男女共同参画を進める研修会、講演会、意見交換会等の開催
（開催規模は参加者数 30 人以上、開催時間は 2 時間程度を目安とする）
- B 男女共同参画啓発誌等の作成・発行
（製本をし、発行部数は 200 部以上とする）
- C 男女共同参画の視点を入れた地域の課題解決のための調査・研究

【テーマ】

- ア 政策や方針の決定の場における女性の参画拡大
- イ 男女双方にとってのワーク・ライフ・バランスの実現
- ウ 男女共同参画推進による地域力の強化
- エ 生活上の困難や男女の暴力に関する課題への対応

③募集対象及び募集团体数

地域の自治組織、民間団体、教育機関、企業、市町等と連携協働して②の事業を実践する静岡県内の地域で活動している団体、9 団体程度。

5 助成の対象及び助成額

①助成の対象

あざれあ地域協働事業に要する経費

計上できる経費は事業費、運営費とする。

事業費・・・謝金、交通費、印刷製本費、使用料

運営費・・・事務費、役務費

②助成額

1 事業 上限 15 万円

6 実施時期

平成 28 年 8 月～ 12 月

7 応募方法

①の書類を②の締切日までに交流会議事務局まで送付のこと。

①提出書類

- A 応募申込書（様式第1号）
- B 収支予算書（様式第2号）
- C 実施団体の概要（様式第3号の1）
- D 協働団体の概要（様式第3号の2）

②募集締め切り

平成28年6月23日（木）

8 決定

選考委員会による書類選考の上、応募団体のプレゼンテーションにより決定し、通知する。

9 事業計画書の提出

事業実施日時等詳細が確定したら、下記書類を提出する。

- ①事業計画書（様式第4号）
- ②ちらし等がある場合は添付のこと。

10 変更の承認申請

事業内容の変更（軽微な変更を除く）、事業を中止または廃止しようとする場合は、決まり次第下記書類を提出し、交流会議代表理事の承認を得なければならない。

- ①事業計画変更承認申請書（様式第6号の1）
- ②変更事業計画書（様式第6号の2）
- ③変更収支予算書（様式第2号）

11 事業報告書の提出

事業完了後、速やかに事業報告書類を提出する。

- ①事業報告書（様式第5号）
（事業実績のわかるチラシ、写真、資料を添付のこと）
- ②収支決算書（様式第2号）
（収支に関する領収書等関係書類も添付のこと）

12 事業費請求の手続き

事業報告書類提出後、交流会議事務局において、収支決算書の内容を審査し、事業費確定通知書を送付する。
通知した日から起算して10日以内に下記の書類を提出する。

- ①請求書（様式第7号の1）

13 事業報告会

すべての団体の事業終了後、事業報告会を開催する。各団体は、事業報告会に出席し、事業の報告をする。

※事業報告会 平成29年2月15日（水） あざれあで開催予定

14 問合せ、書類提出先

特定非営利活動法人 静岡県男女共同参画センター交流会議事務局
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵 1-17-1（静岡県男女共同参画センターあざれあ3F）
TEL：054-250-8147 FAX：054-251-5085
E-mail：azareachiiki@gmail.com
URL：http://www.azarea-navi.jp/（関係書類ダウンロード先）

平成 28 年度
あざれあ地域協働事業
実績報告書

平成 29 年 2 月 15 日発行

【編集・発行】特定非営利活動法人 静岡県男女共同参画センター交流会議
〒 422-8063 静岡市駿河区馬淵 1-17-1
TEL：054-250-8147 FAX：054-251-5085
E-mail：azareachiiki@gmail.com
URL：http://www.azarea-navi.jp/

【印刷】株式会社 竜南写植

